

WEEKLY SIGNAL

平成30年6月8日(金) 1427号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/11(月)	6/12(火)	6/13(水)	6/14(木)	6/15(金)
無担保O/N			△0.086%	～0.001%	
銀行券	+900	トシ	トシ	△1,000	△1,000
財政債	△16,000	+2,000	△8,000	トシ	+84,000
資金需給	△15,100	+2,000	△8,000	△1,000	+83,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 物価連動債償還(10Y)		源泉税揚げ	交付税特会借入・償還	年金定時払い 国債償還(2Y)
オペ期日	共通担保(全店) △1,600 CP等買入 △400 社債買入 △100 補完供給 +400			被災地支援 △900	
オペスタート	国債買入 +3,900 共通担保(全店) +1,500 ETF買入 +200				
(日本)	マネーストック(5月) 機会受注(4月)	企業物価指数(5月)		日銀金融政策決定会合 (15日まで)	日銀金融政策決定会合、 結果公表 黒田日銀総裁会見
(海外)		米朝首脳会談(シンガポール) 米 FOMC(13日まで) 米 CPI(5月)	米 FOMC政策発表、経済予測 米 ハウエルFRB議長記者会見	欧 ECB金融政策会合 ドゥアキ総裁記者会見 米 週間新規失業保険申請件数 (6月9日終了週) 米 小売売上高(5月)	米 鉱工業生産(5月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(6月、速報値) ユーロ圏 CPI(5月、改定値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、法人税・消費税・保険等の揚げによって先週末比4兆7,200億円減少の376兆2,500億円から始まった。6日には国債発行等を主因に375兆円台に減少したものの、その後は国債買入オペ等により増加し、377兆3,500億円を越えた。無担保コールON物は、先週に引き続き資金調達ニーズが弱く、同加重平均金利は週を通して△0.073～△0.071%のレンジで推移した。ターム物は1～2W物で△0.065～△0.055%で取引された。6月4日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は5,000億円と、前回オファー分(5月28日、オファー額5,000億円、応札倍率3.72倍)と横ばいだった。応札倍率は4.67倍となり、前対比で上昇する結果となった。来週は、国内では日銀金融政策決定会合(14～15日)、海外では、米朝首脳会談(12日)、FOMC(12～13日)、ECB理事会(14日)が予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約3,800億円で、週間償還総額の約4,700億円を下回った。償還超の日が多く、閑散なマーケットとなった。週末の発行市場残高は約17兆4,150億円と前週末比ほぼ横ばいであった。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが引き続き強く、概ねマイナス～0%近辺の出合となった。5日にオファーされたCP等買入オペ(2,500億円)は、按分レート△0.005%、平均落札レート△0.003%と前回比低下した。

来週の償還総額は、約7,300億円となっている。五・十日発行が予定されるものの、発行体の資金調達ニーズは鈍く、償還超が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス～0%近辺の出合いであろう。12日にCP等買入オペ(2,500億円)がオファーされる予定。

<TDB>

7日に行われた国庫短期証券6M第762回債の入札は、最高落札レート△0.1262%(前回債△0.1255%)、平均落札レート△0.1282%(同△0.1294%と前回債とほぼ同水準の結果となった。8日に行われた3M763回債は最高落札レート△0.1243%(前回債△0.1443%)、平均落札レート△0.1295%(同△0.1479%)と前回債からマイナス幅を大きく縮小している。セカンダリー市場は新発3Mはほぼ入札と同水準の△0.13～△0.125%の出合が見られた。来週は14日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初△0.14～△0.13%近辺。以降は上昇基調となり、週後半にかけて△0.10%前半の出合が続いた。短国6M、3Mの発行が重なった11日受渡しでは、△0.09%近辺の取引も見られた。SC取引では5年135回債、10年350回債のbidが多かった。5年135回債は、4日の国債買入オペ後△0.40%近辺～△0.30%台半ばの出合が見られたが、週末には△0.10%台後半までレートが上昇した。10年350回債は入札日前日△0.30%前半～△0.20%台半ばで多く取引された。他2年388回債、5年134回債、10年340・341・346・347・348・349回債、20年163・164回債、30年57・58回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。